

ハイ
ライト

令和4年度 沖縄平和啓発プロモーション事業の実績 うむい(思い)と数字

出前授業参加者

1072人

412人

沖縄県内

- ・名桜大学
- ・真和志高校
- ・東中学校
- ・糸満中学校
- ・屋良小学校

660人

沖縄県外

- ・同志社中学校(京都)
- ・忍海小学校(奈良)
- ・上牧小学校(奈良)
- ・調布北高校(東京)
- ・関東学院大学(神奈川)

県内では、難民問題から沖縄戦前後の歴史的な史実を参加型学習で提供しました。県外では、沖縄をまずは知ってもらうクイズの導入から沖縄戦の実相、慰霊の日の取り組み、沖縄の歴史をテーマに、授業を提供しました。



イベント参加者

877人

渋谷伝承ホール(会場参加) 164人 + オンライン参加 531人

東京シンポジウム 695人

横浜・鶴見 沖縄県人会 + 関西セミナー ハウス + 読谷村文化センター (神奈川) (京都) (沖縄)

ちむどんピース 145人

対馬丸生存者・語り部 平良啓子さん 講話会 対馬丸記念館(沖縄)

21人

沖縄・長野大学生平和交流会 JICA 沖縄(オンライン形式)

16人

平和発信に関して、県内だけの理解を求めるのではなく、沖縄から平和発信を全国に届ける意味を大事にし、講演会、音楽、ワークショップ、様々な形式にて展開しました。

平和教育指導者養成講座参加者

109人(累計)

- ・第1回 平和教育指導者養成講座
- ・第2回 平和教育指導者養成講座
- ・戦跡フィールドワークを通じた学び
- ・7月、8月、9月、1月、12月 オンラインで教員が集う会

次世代の平和教育者として、県内の教育機関の教員(小、中、高、大学、社会教育)などを対象とした平和教育の教材作成などの学び、日ごろの実践共有を対面およびオンラインを通じて行いました。

メディア取材回数 18回

- ・新聞10回(沖縄タイムス6回、琉球新報3回、信濃毎日新聞1回)
- ・テレビNews(RBC、QAB、NHK沖縄)
- ・ラジオ4回(RBCiラジオ3回、FM沖縄1回)
- ・雑誌(オキナワグラフ)

学校・協力団体

22団体

学校

沖縄県内5校、県外5校

県人会、社会教育、行政、NPO

横浜・鶴見沖縄県人会、開発教育協会、神奈川県川崎市子どものフリースペースえん、関西セミナーハウス開発教育研究会、読谷村、読谷村文化センター、ひめゆり平和祈念資料館、対馬丸記念館、長野県、AMICUSインターナショナル、沖縄県東京事務所、沖縄県平和祈念資料館、他

「つなげる」意味

本事業は、県内外の様々な組織とのパートナーシップを重視しており、沖縄県の平和啓発事業に賛同いただいた関係機関、団体のご協力を得て平和へのうむい(思い)を広く届けることができました。



ボランティア参加・協力者

44人

様々なイベントにおきまして多くの方々にご協力頂きました。

横浜・鶴見沖縄県人会役員、関東学院大学教員・学生、関西セミナーハウス開発教育研究会、沖縄県内高校生、読谷村職員、一般の方々

多くの支えがあってこそ

本事業内でご登壇して下さった方々、イベント参加者、ワークショップの運営補助等、数えきれない程のご協力があったからこそでした。本事業は、県内外の様々な組織とのパートナーシップを重視しており、沖縄県の平和啓発事業に賛同いただいた皆さまの思い、支えがあったからこそ、受け取った人の心に届く、平和のうむい(思い)を届ける場づくりができました。

平和の「うむい」メッセージの数

2,043

平和への「うむい」メッセージを集めた場所・時間

- ・学校10校、教育機関
- ・世界のウチナーンチュ大会
- ・東京シンポジウム
- ・RBCiラジオ「まるごと平和」の日スペシャル
- ・ちむどんピースイベント(3会場)

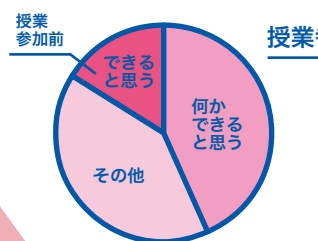
「うむい(思い)」の可視化

一人の思いは小さく、この声の世界に影響するなんて実感することは難しいかもしれません。しかし、沖縄から大事なうむい(思い)を届けることで、多くの方々の共感があり、うむいが共鳴しあうことが分かりました。



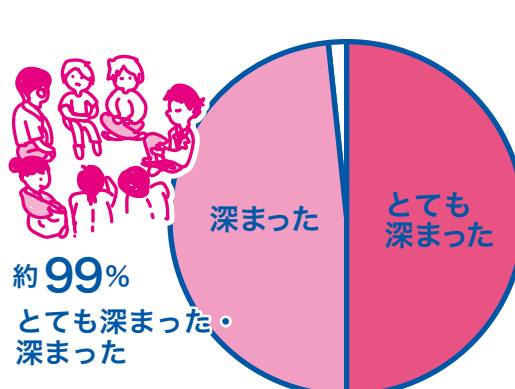
参加した若者のうむい(思い)の変化

Q あなたは世界を変えることができますか? (授業参加前)



約59% → 約79%
できると思う・何かはできると思う

Q 授業後、平和への理解が深まりましたか?



約99%
とても深まった・深まった

日本を含めた7カ国の若者を対象とした意識調査で自己肯定感を図る質問に「社会現象を変えることができるか?」というものがあります(内閣府:子ども・若者白書)。出前授業においては、沖縄戦教訓の継承や歴史にみる沖縄、人々の生き方に触れるなかで、私は何が出来るだろう?小さなことから何かやってみようという問いかけを大事に展開してきました。授業のプログラムは、話を聞いて理解するだけでなく、シュミレーション体験を通して戦争経験者の立場になって考えることによって、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学ぶ流れとしました。授業前後の受講者の意識の変化が大きく、学びを通じての理解度が高くなっているのは、主体的に学んだ結果だと思われます。

つたえる、つなげる、のこす、沖縄のこころ

～本事業で大事にしてきたこと～

教育現場

県内外の教育現場に平和啓発の授業を届け、意識の変化を調査する。



平和で公正な社会

沖縄からの発信を通じて、最も大事な根幹である、平和な社会の実現を目指す。



次世代の育成

平和関連の現場組織で働く職員および平和教育を届ける方々がつながり、次世代継承を行う。



県外イベント

全国に伝える意義がある沖縄の経験を、県内外へ発信。



教材の整理・作成

戦争経験者が年々減少していくことや、世界で起きている紛争問題とも照らし合わせて、何をもって平和の学びであるかを整理し、教材作成を継続的に行う。

